



山田ひとき

平群町議会議員 ◆ 後援会会報

発行／山田ひとき後援会
広報部
令和3年2月5日発行
〒636-0914
奈良県生駒郡平群町西宮2-6-21
Tel.0745-45-4845 FAX0745-45-4727
メールアドレス hitoki@m4.kcn.ne.jp

山田ひときの略歴

文化団体“やまと四季探訪”主宰

- ◇昭和36年4月16日平群町に生まれる
- ◇平群西小卒業 ◇平群中学校卒業
- ◇県立高田高等学校卒業
- ◇摂南大学 建築学科卒業
- ◇一級建築士
- ◇スキューバダイビング資格取得



- 総務建設委員会 委員
 - 公共交通対策特別委員会 委員長
 - 駅周辺整備事業特別委員会 委員
 - 議会改革特別委員会 委員
 - 佐藤正久参院議員(ヒゲの隊長)
- 奈良県後援会平群支部長

平群町の地方債残高の推移

| | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------------|--------|---------|--------------|--------|--------|----------|
| 年度初め | | | | | | | | | | |
| 地方債残高 | 10,432 | 9,760 | 9,898 | 9,189 | 8,764 | 8,434 | 8,621 | 10,255 | 10,141 | 10,065 |
| 年度内 | | | | | | | | | | |
| 実質起債額 | 709 | 1,918 | 423 | 550 | 503 | 1,027 | 2,476 | 836 | 799 | 2,994 |
| 土地開発公社 | | | | | | | | | | |
| 借入額 | 4,722 | 4,770 | 4,765 | 4,646 | 4,444 | 3,784 | 1,975 | 1,921 | 1,870 | 0 |
| 単年度 | | | | | | | | | | |
| 実質償還額 | -1,719 | -2,072 | -1,378 | -1,193 | -1,027 | -1,018 | -1,010 | -1,122 | -1,040 | -1,041 |
| 合計(年度末) | 14,144 | 14,376 | 13,708 | 13,192 | 12,684 | 12,227 | 12,062 | 11,890 | 11,770 | 12,018 |
| 備考 | | | | | | 土地開発公社 | 土地開発公社 | | | 土地開発公社 |
| (主な起債事業) | | 斎場建設 | | スポーツセンター用地買戻 | | 平群小用地買戻 | スポーツセンター用地買戻 | | | 解散・残用地買戻 |

| | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | R 2年度 | R 3年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|----------|--------|--------|
| 年度初め | | | | | | | | | |
| 地方債残高 | 12,174 | 12,723 | 13,444 | 13,625 | 13,762 | 13,552 | 14,588 | 15,223 | 14,745 |
| 年度内 | | | | | | | | | |
| 実質起債額 | 2,220 | 1,577 | 969 | 1,054 | 722 | 2,002 | 1,640 | 572 | 500 |
| 土地開発公社 | | | | | | | | | |
| 借入額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 単年度 | | | | | | | | | |
| 実質償還額 | -1,832 | -996 | -921 | -1,039 | -1,040 | -1,061 | -1,094 | -1,097 | -1,124 |
| 合計(年度末) | 12,562 | 13,304 | 13,492 | 13,640 | 13,444 | 14,493 | 15,134 | 14,698 | 14,121 |
| 備考 | 平群小大改修 | こども園建設 | こども園建設 | | | 駅周事業 | | | |
| (主な事業) | こども園建設 | | | | | 文化センター他用地 | 文化センター建設 | | |

* 合計(年度末)と翌年度初めの地方債残高の差異は土地開発公社分及び利子の増額分
上記 赤色数字は予定の概算数字

※表の見方…合計額の数字が一般的に言う借入残高です。土地開発公社の借入金は過去からの負債であり、県の要請も含め町としても先行買収した土地の負債となった借入金ですが、平成20年度以降、土地開発公社の経営健全化の為に借入金を地方債に充当する事が可能となり、町の借入金として同様の扱いとし、合計金額で表しています。

何故いつまでも厳しい財政状況がづくのか？

昨年11月12日、朝日新聞の記事に『5市町 財政重症』・『県が警報改善を促す』と掲載され、平群町も5市町の中に含まれていました。記事の内容として平群町は、財政指標のひとつである将来負担比率が県内ワースト1位、実質公債比率が県内ワースト2位となっているという現状でした。確かに現在の平群町の財政状況はこれまで以上の危機的状況なのは事実であり、この現実を数年前から予測されていたのも事実です。

しかし何故、今になって十数年前と変わらず財政状況が厳しいのでしょうか？
その要因には、町税収入等の歳入面の減少や国から交付される地方交付税収入等の増減変動、総人件費の増加等、数々の要因はありますが、今回はひとつの大きな要因である地方債の残高(一般家庭というローン・借金)と償還額(ローンの返済)について、私が議員になった平成15年度からの地方債(借入金)の状況を示し実質公債比率が高いその現状について考えてみたいと思います。

自治体における一般財源の規模に対する公債費(償還額)の割合のこと。18%以上になると、自治体は地方債発行に国の許可が必要になり、25%以上になると、地方債を発行できなくなる。

まず地方債というのは、事業を行うため国や県の同意の上で借入金であり、後年度に負担を残すもので一般家庭に置き換えるとローン(借金)のことです。
地方債は発行(借入)後すぐには償還(返済)する必要がなく、元金を1〜5年据え置いた(無返済)あと、2〜6年後から利息と共々5年〜30年をかけて償還するという制度です。

そのうえで、下記一覧表の合計金額(借金残高)を見ると、平成16年度の143億円の借入金が平成20年度まで、年間5億円程度以上減少していましたが、それ以降、横ばいとなり、平成25年度からは少しずつ増加し、平成30年度末には平成16年度末とほぼ同じ145億円にふくれあがり平成31年度では平成15年度以上の151億円にもなり、これは、一覧表には表していませんが、平成13年度と同じ状況です。平成13年度当時は財政調整基金(貯金)が5億円程度ありましたが、現在は、ほぼ0円というのが現状です。

これはもちろん色々な事業を行った事によるものですが、結果として地方債残高が多くなっています。その結果、町が公表した直近の財政シミュレーションによる償還額(返済額)が令和3年度より10数年間11億円を超えることとなり、財政を圧迫する状況となっています。そのため、令和3年度には、実質収支(財政の累積の決算額)が赤字となつてしまひ、令和7年度には、累積で約7億円近い赤字となり、財政再生団体となる8・8億円の赤字額に近づく可能性があるのが現状です。

今後のまちづくりの課題

また今後、事業等を行う事で公債費が増えれば、平成31年度の実質公債比率16・1%や将来負担比率241・3%が財政再生団体の指標に近づく結果となってしまいます。

平群町の財政規模では、年間10億円以下の償還額(返済)で推移していく状況が、健全な財政運営ができる限界です。

令和2年9月議会 / 12月議会

令和2年9月議会

町内道路の維持補修・歩道整備について



同様の財政状況といえます。そのような悪いイメージを払拭するため、住民の安心・安全を守るためにも、道路整備、維持補修は計画的、継続的に進める必要があります。

質問

① 厳しい財政状況の中、国庫補助金や町単独費も活用しながらの道路維持補修計画についてどのようにお考えか？
② 歩道整備、バリアフリー化も順次進めておられますが、

今後の計画はどのようにお考えか？

答弁

③ 緑ヶ丘地区の歩道整備は、当初のメイン道路整備から、西側バス路線の整備工事を先行されるようになったが、今後どのような計画で進められるのか？また、歩道部分への植栽等は景観や緑化推進からみて必要なかもしれません。幅員2mの歩道に植栽部分は通行に支障があり、危険であるように思うがいかがお考えか？

① 町管理の道路は約280kmで近隣町と比較し約2倍の路線であり、多くの道路は高度経済成長期以降に建設され、老朽化のため改修が必要となつてきています。
しかし、道路の安全確保は管理者の責務であり、今後も計画的・継続的に実施できるよう、必要財源の確保に努めて参りたい。
② 今後は要望頂いている緑ヶ丘・若葉台・椿台の延長2.6kmの歩道改修の予定。また、その他要望頂いている光ヶ丘地区等順次、国の補助等財源を確保し整備して参りたい。
③ 令和2年度で緑ヶ丘バス路線の歩道改修工事が完了。今後メイン道路の未整備区間約400mの財源確保に努め、整備して参りたい。
また、現在計画している今後の歩道改修については「高齢者、障がい者等の移動円滑化の促進に関する法律」に基づき「道路構造令に規定する歩道幅員2m以上を確保すること」を基本的に遵守し、現歩道の幅員構成では植樹樹等は設けない方向で検討して行きたいが自治会とも充分協議の上、進めて参りたい。

住宅土地統計調査で専用住宅空き家は510戸となっており、空き家バンクの登録数は、6件である。
② 西山間地域で1件の登録がある。
③ 成立実績件数は、平成29年度に1件と交渉中物件1件である。
④ 民間会社が所有する不動産売買物件情報等をホームページ上で情報リンクしている市町村がないか等の実例を調査し、法的に問題がないかも含め検討して行きたい。

山田ひときの指摘

空き家バンクについて掲載されている町ホームページは以前と比較して、より解りやすく丁寧な情報提供になっていると思うが、登録が6件では少なすぎて情報を求めている人にとって、認知度や需要度が増してこないと思う。
町内経済の活性化並びに空き家対策の為に、町内不動産業者や大手不動産事業者と連携し、情報提供物件数を増加させる官民連携が出来るシステムの構築を図り、空き家の解消に取り組む必要があると考えます。

質問

① 空き家の現在の実態と空き家バンクの登録数は？
② 旧大字等での古民家といわれる住居の登録数は？
③ これまでの空き家バンクのマッチング成立実績件数は？
④ 民間活力・民間物件の情報掲載は法的に問題があり出れないのか？

答弁

① 令和2年公表の平成30年

定住促進、空き家対策における空き家バンク制度について

令和2年12月議会

平群町内の空き家の現状は、

平成25年、全国的に放置された老朽化した空き家が近隣居住者や通行人、通行車両にとつて倒壊等による非常に危険な状況の事例の指摘が多くなつてきたことや人口減少による空き家も増加し、国庫補助による現状調査が推進された事に伴い、本町も8月～10月にかけ実態把握に取り掛かり、平群町内で534戸もの空き家が確認されました。その結果平成27年4月、空き家等の有効活用を通して、定住の促

進及び地域の活性化を図るために空き家バンク制度が制定、実施されました。
昨今の社会情勢の中、新たな山間地等での大型住宅開発の需要が少なく、平地部分での大型住宅開発用地も確保で

きない状況の中、6月議会で一般質問した定住促進奨励金として家屋の固定資産税を3年間キヤッシュバックする個人給付的施策の状況から見ても平成28年～令和2年までの5年間の全給付個数258戸に対し中古物件の対象戸数が66戸の約25%と少ない現状になつています。
平群駅周辺や竜田川駅周辺等で土地が比較的安価な場所にはミニ開発、いわゆる道路位置指定といわれる開発ではすぐに個人住宅が建ち並び、販売・購入されているように見受けられます。



山田 仁樹 議員

① 令和2年公表の平成30年

*その他の一般質問
9月議会：農業就労者の求人広告掲示板の設置について
12月議会：椿井地区・元コーナン開発予定地の今後の土地利用について

一般質問 (要旨)



町管理道路の維持補修・整備状況は町民の日常生活と密接な関係であり、道路の凹凸による騒音・振動、歩道の不具合・不陸による転倒の危険や車椅子や押し車の通行等に大きな支障を及ぼすという、日々の生活に直接的に及ぼす影響は大きな部分で関係するものとなります。
財政悪化による財政再生団体となった自治体では、職員給与カットや住民サービス、福祉施策の後退とともに、行政の管理責務である道路維持補修に充当される予算がカットされるといふことになり、結果、町内いたる所、あちこちで穴ぼこ、段差等が放置されている状況になってしまします。逆に言う道路維持補修状況がそのような状態になつてしまつている自治体は、財政再生団体に陥っているのと